日本福祉大学経済学会・日本福祉大学福祉社会開発研究所『日本福祉大学経済論集』
The Journal of Economic Studies, Nihon Fukushi University
第30号　2005年2月

近藤悟先生の想い出

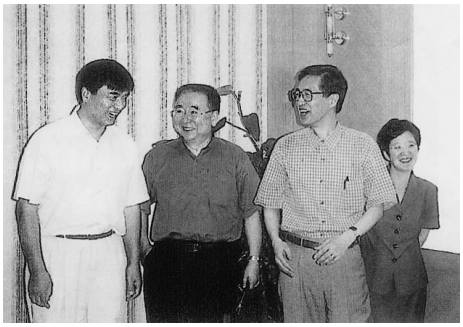
岩　田　龍　子
Ryushi IWATA

近藤悟先生とは，学部が異なるため，長年ほとんど接触がなかった．密接なつながりができたのは，陳立行教授の研究プロジェクトに参加して以来である．特に2001年には，近藤先生と私，それに岩田奇志の3名が，北京・成都・合肥と企業調査をしてまわったことから，濃密な共同作業の時間を持つこととなった．このうち，北京と合肥については，やや記憶が薄れているが，成都での調査は，強く印象に残っている．この調査が，非常に実りの多いものだったためであろう．今思い出すままに，そのいくつかを紹介する．

北京での調査を終えたわれわれは，一度訪問したいと思っていた三国志の蜀の都であった成都に飛んだ．劉備玄徳や諸葛孔明の活躍したあの成都である．成都では，中国人民政治協商四川省委員会副主席の章玉均氏をまず訪ねた．たまたま同氏が岩田奇志の父親，沈静教授の北京大学時代の同級生であったことから，その縁を頼ったのである．そのおかげで，普通なかなか会えない大物経営者たちに面接することができたし，四川大学の教員7氏と親しく討議する機会を得た．

北京の私営縫製工場を調査する

一夕，章玉均氏に招待され歓談していたときのことである．近藤先生が，こんなことを述懐されていたのを今思い出す．「私の祖父も父も中国文学が専攻でした．不肖の私は，理科系に進学してしまったが，ご縁があってまた，中国の研究を手がけている」というのである．


中国著名の私営企業家劉永好さんと会見する

章玉均氏がアレンジしてくれて，当時民営企業ナンバーワンと言われていた新希望集団の総帥，劉永好氏に面接できたのは，幸運であった．この他，地奥製薬株式会社など有力・中堅企業などを取り混ぜて3社，合計4社で面接調査を行うこと

ができ，加えて四川大学の研究者たちと討論・歓談できたのもうれしい出来事であった．

こうした実り多い調査に加えて，三国志よりも古い時代に卓抜なアイディアで治水を行い，川の増水が自然に支流に流れるようにして氾濫を防ぐ工夫をしながら，本流を四川盆地に導き，古来「天府の国」といわれる豊かな国を作り上げるのに役だった都口堰，蜀の丞相諸葛孔明を祀った武侯伺・かつて杜甫がひととき住んだという杜甫草堂などを訪ね，楽しい時間を過ごした．悠久の往事をしのびながら．このとき近藤先生が，「中国文学専攻の父は，杜甫が大好きだった」とつぶやきながら，杜甫草堂の説明パンフと草堂で画家自身が売っていた何枚かの墨絵を，丁寧に選んでお土産にと買って帰った姿を思い出す．

この年，合肥での調査はあまり印象に残っていない．ただ１社，金属に印刷を施す高度な技術を持った印刷所を訪ね，関羽の像を印刷したかなり大きな金属板をもらって帰ったことは覚えている．近藤先生は，この大きな金属板を日本に持って帰りたい様子で，最後までこれを抱えこんでいたが，最後の瞬間，とても無理だとあきらめて中国に残した．

また合肥では，四川省出身で徒手空拳，裸一貫から，見事に郷鎮企業を発展させ，村全体をうるおした優秀な経営者で，現在中国人民政治協商合肥市委員会副主席を勤める王清世氏に招かれ，１夕を楽しんだ．

合肥の私営企業家・安微省政治協議会副主席
王清世さんと会見する

まことに残念なことに，近藤先生は若くして世を去られたが，こうした有意義で楽しく過ごした調査の思い出は，先生の人生に，ひとつの「華」を添えたと信じている．　合掌